



グミ(裏庭)

つながい

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~
~やさしく かしく たくましく~

第3号
R3. 5. 25
山口大学教育学部附属幼稚園

体験を通して育つことば

副園長 大森 洋子

5月終わりから6月にかけて、裏庭のグミの木にはたくさんの実がなります。少し高い所になっているので、子どもたちは先生たちの手を借りながら採って、集めたり、袋に入れたり、色水にしたり、食べたりして楽しんでいます。私は、一度は「食べてみる？ 真っ赤なのを食べるんだよ。」と声をかけ、「お菓子のグミとは違うから甘くないよ。酸っぱいよ。」などと言いながら熟れた実を渡します。洗って、恐る恐るでも口にしてみる子どもはなかなかのチャレンジャーです(素晴らしい)。たいていの子どもは、まずは先生や友達が食べる様子を見て、その反応から自分がどうするかを決めています。(こちらも素晴らしい)。「おいしい」と気に入った子どもは、真っ赤でなくても平気で食べます。食いしん坊か甘い物で育っていないのだと解釈しています。多くの子どもは、一口食べると何とも言えない顔をして、「ウェー」「辛い」「苦い」「まずい」「おいしくない」などと言います。調理したものでは味わうことのない、自然の渋みと酸味…この独特の味を子どもたちがどう感じ、どう表現するのかとても興味深いです。そして、「渋味」を知ってほしいなあと思いながら、「この味は『渋い』って言うんだよ」と毎年声をかけています。

星組のAちゃんは、オレンジ色に近いグミを採って食べると、顔をしかめ「うわあ、渋い！」と言いました。子どもの口から「渋い」を聞いたのは久々で驚くとともに、きっと家庭でもいろいろな経験をして豊かな言葉に触れているのだろうなと思いました。幼稚園でもいろいろな経験をしているいろいろな言葉に出会い、経験と言葉が結びつくいいなあと思いました。

経験も言葉も少ない子どもたちは、しばしば適切ではない表現をすることがあります。例えば、「誰も遊んでくれない」と言っていたBちゃんは、大好きなCちゃんと遊びたいのに、Cちゃんが別の遊びをしていたことが悲しかったのだとわかりました。「Dちゃんが意地悪した」と言ってきたEちゃんは、自分が使おうと思ったスコップをすでにDちゃんが使っていたことが嫌だったからそう言ったとわかりました。子どもの発する言葉だけに頼らず、意味するところを捉えて、言葉を補ったり適切に言い換えたりしながら、気持ちを受け止めて接していきたいと思えます。それとともに、「友達」という存在は、とても大切でうれしい存在であるとともに、「自分とは違う思いをもった人」であり、「いつも自分の思い通りになるとは限らない人」でもあることを少しずつ学んでいけるようにかかわりたいとも思いました。

まもなく始まる保育参加でも、似たようなことに出会うかもしれません。真摯に丁寧にかかわっていただけると嬉しいです。



花組：「先生頑張ってー」
(自分で頑張る日を楽しみに)



ヒーローVS バイキンマン
(先生は悪者担当です)



風組：思い思いのものを作って



「くじ屋さんに来てね」



星組：アミと虫かごが気分を盛り上げます。 帰りの会でゲーム



遊戯室：雨の日は巧技台を組み立てて、サーキット状にして遊びます。

山口大学生が入ります：学部授業や教育実習事前指導などで、主に教育学部幼児教育コースの学生が保育観察や保育参加に入ります。1回10名程度(学級に配属する場合は各組2名)で、来園2週間前から検温及び健康観察、行動履歴チェックを行い、大学が問題ないと判断した学生のみが参加します。また、園児との接触等にも十分配慮します。保護者の皆様におかれましてはご心配もおおかりかと思いますが、学生の学びを保障するために、ご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。

土砂災害等に備えて：土砂災害防止法に基づき、都道府県は土砂災害の恐れがある区域(土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域)を指定することになっており、本園は、土砂災害警戒区域内に位置しています。それを受けて、本園では、山口市が策定する地域防災計画のもと避難確保計画を作成し、避難訓練等を実施しています。特に梅雨時期は、大雨等による土砂災害が心配されますが、その場合、土砂災害警戒情報などをもとに判断して、早期お迎え、休園、避難等の対応をとる場合がありますので、ご協力をお願いいたします。また、普段から、情報収集に努め、園からの連絡の有無にかかわらず、常に身の安全を守る行動をとるように心がけましょう。